



サイバーセキュリティの置き薬

2020年
第6号

「情報セキュリティ10大脅威2020」について (組織)

IPA (独立行政法人情報処理推進機構) は、2019 年に発生した社会的に影響が大きかったと考えられる情報セキュリティにおける事案から、組織として優先順位をつけて対策を講じるための「情報セキュリティ 10 大脅威 2020」を決定しました。

順位	組織	昨年順位
1位	標的型攻撃による機密情報の窃取	1位
2位	内部不正による情報漏えい	5位
3位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	2位
4位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	4位
5位	ランサムウェアによる被害	3位
6位	予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止	16位
7位	不注意による情報漏えい(規則は遵守)	10位
8位	インターネット上のサービスからの個人情報の窃取	7位
9位	IoT機器の不正利用	8位
10位	サービス妨害攻撃によるサービスの停止	6位

上位5位は昨年か
ら変わっておらず、
引き続き警戒が必
要です。



《標的型メール攻撃に対する注意点》

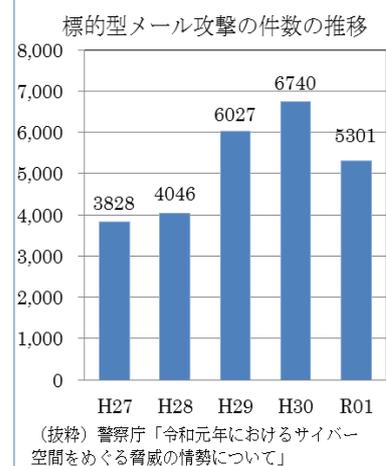
攻撃者は、標的とする組織を攻撃する手段として「メール」を利用します。

被害に遭わないための有効な対策として、

- ・ 不審なメールは開かない
- ・ 不審なメールの添付ファイルは開かない
- ・ 不審なメールの、メール本文中の URL リンクをクリックしない
- ・ Word や Excel 等の”マクロを無効にする”設定にする

(2019年のサイバーセキュリティの置き薬(第1号、第13号)参照)

等があります。必要な対策を取って、「フィッシング」や「ウイルス感染」の危険を排除していきましょう。



【参考サイト】

独立行政法人情報処理推進機構セキュリティセンター (IPA)
<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2020.html>

